

2013年8月期 上期業績 および通期見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2013年8月期上期の業績、および
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 2013年8月期 上期実績	P3	～	P15
II. 2013年8月期 通期業績予想	P16	～	P20
III. ご参考資料	P21	～	P23

【資料文中のグループ事業の表示について】

各グループ事業の構成は、以下のとおりです。

(2013年8月期)

国内ユニクロ事業：株式会社ユニクロの数値が表示されています。

海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業：セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、
ジーユー事業、J Brand事業が含まれています。

(2012年8月期)

国内ユニクロ事業：株式会社ユニクロの数値が表示されています。

海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業：セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、
ジーユー事業が含まれています。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

【連結】2013年8月期 上期実績

売上高： 6,148億円 (前年同期比+17.0%)
営業利益： 966億円 (前年同期比 +5.3%)
経常利益：1,077億円 (前年同期比 +15.2%)

	2012年8月期		2013年8月期 上期		
	上期実績	直近予想 (1/10時点)	実績	前年同期比	直近予想比
売上高 (売上比)	5,255 100.0%	5,965 100.0%	6,148 100.0%	+17.0%	+3.1%
売上総利益 (売上比)	2,684 51.1%	3,045 51.0%	3,039 49.4%	+13.2% ▲1.7p	▲0.2% ▲1.6p
販管費 (売上比)	1,767 33.6%	2,085 35.0%	2,073 33.7%	+17.3% +0.1p	▲0.6% ▲1.3p
営業利益 (売上比)	917 17.5%	960 16.1%	966 15.7%	+5.3% ▲1.8p	+0.7% ▲0.4p
経常利益 (売上比)	935 17.8%	955 16.0%	1,077 17.5%	+15.2% ▲0.3p	+12.8% +1.5p
純利益 (売上比)	577 11.0%	575 9.6%	654 10.6%	+13.2% ▲0.4p	+13.8% +1.0p

単位：億円

3

2013年8月期上期の連結業績ですが、
 売上高は6,148億円、前年同期比17.0%増、
 営業利益は966億円、同5.3%増、
 経常利益は1,077億円、同15.2%増、
 純利益は654億円、同13.2%増となりました。

次のスライドで要因をご説明いたします。

【連結】上期 増収増益の要因

売上高 6,148億円 (前年同期比 +17.0%、893億円増収)

- ・ 海外ユニクロ事業 +458億円
- ・ 国内ユニクロ事業 +226億円
- ・ グローバルブランド事業 +208億円

売上高総利益率49.4% (前年同期比 ▲1.7p)

- ・ 国内ユニクロ事業 ▲1.5p

売上高販管費比率33.7% (前年同期比 +0.1p)

- ・ 国内ユニクロ事業 +0.5p

営業利益966億円、営業利益率15.7% (前年同期比▲1.8p)

経常利益 1,077億円、経常利益率17.5% (前年同期比▲0.3p)

- ・ 円安により為替差益111億円が発生、営業外収支は93億円改善

純利益 654億円、前年同期比13.2%増

- ・ J Brandの買収に伴う費用7.3億円を特別損失として計上

4

まず売上高ですが、6,148億円と、前年同期比17.0%、893億円の増収となりました。その内訳としては、海外ユニクロ事業が458億円の増収、国内ユニクロ事業が226億円の増収、グローバルブランド事業が208億円の増収となっております。

売上高総利益率は49.4%と、前年同期比1.7ポイント低下いたしました。粗利益率低下の要因としては、国内ユニクロ事業の粗利益率が、同1.5ポイント低下したことがあげられます。

売上高販管費比率は33.7%と、前年同期比0.1ポイント増加しております。これは、国内ユニクロ事業の売上高販管費比率が0.5ポイント上昇したことによります。

これらの結果、営業利益は966億円と49億円の増益となりましたが、営業利益率では15.7%と、同1.8ポイント低下いたしました。

経常利益につきましては1,077億円と142億円の増益となっており、経常利益率は17.5%と、同0.3ポイント低下に留まっております。これは、8月末より円安が急速に進んだことにより、この上期では為替差益111億円が発生し、営業外収支が前年同期比で93億円改善したことによります。

純利益は654億円、前年同期比13.2%増となりました。なお、J Brandの買収に伴う費用7.3億円を特別損失として計上しております。

上期 グループ事業別実績

単位：億円

		2012年8月期	2013年8月期	
		上期実績	上期実績	前年同期比
国内ユニクロ事業	売上高	3,645	3,872	+6.2%
	営業利益	722	689	▲4.5%
	(売上比)	19.8%	17.8%	▲2.0p
海外ユニクロ事業	売上高	848	1,306	+54.0%
	営業利益	114	160	+39.8%
	(売上比)	13.5%	12.3%	▲1.2p
グローバルブランド事業 ※1	売上高	748	957	+27.8%
	営業利益	79	85	+8.5%
	(売上比)	10.6%	9.0%	▲1.6p

注 連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、のれん償却費が含まれております。

※1 グローバルブランド事業：2013年8月期 上期実績には2012年12月に子会社化したJ Brandの直近2か月分の売上高、営業利益が含まれております。

5

グループ事業別の業績は、こちらのスライドの通りです。

国内ユニクロ事業の売上高は3,872億円、営業利益は689億円、
海外ユニクロ事業の売上高は1,306億円、営業利益は160億円、
グローバルブランド事業の売上高は957億円、営業利益は85億円
となっております。

海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業では増収増益を達成して
おりますが、国内ユニクロ事業では、客数増を狙って販促を強化したこと、
冬物在庫の処分を進めた結果、減益となっております。

【国内ユニクロ事業】上期実績

上期 増収減益

直近予想比:売上高+87億円、営業利益▲30億円

単位: 億円

	2012年8月期 上期実績	2013年8月期 上期			
		直近予想 (1/10時点)	実績	前年同期比	直近予想比
売上高 (売上比)	3,645 100.0%	3,785 100.0%	3,872 100.0%	+6.2%	+2.3%
売上総利益 (売上比)	1,758 48.2%	1,820 48.1%	1,809 46.7%	+2.9% ▲1.5p	▲0.6% ▲1.4p
販管費 (売上比)	1,035 28.4%	1,100 29.1%	1,119 28.9%	+8.1% +0.5p	+1.8% ▲0.2p
営業利益 (売上比)	722 19.8%	720 19.0%	689 17.8%	▲4.5% ▲2.0p	▲4.2% ▲1.2p

6

ここからは、各事業についてご説明いたします。

まず国内ユニクロ事業の上期の業績ですが、先程申し上げた通り、売上高は3,872億円、前年同期比6.2%増、営業利益は689億円、同4.5%減と、増収減益の結果となりました。

これは、1月10日の直近予想に比べて、売上高で87億円上回り、営業利益で30億円下回っております。

詳細については、次のスライドでご説明させていただきます。

【国内ユニクロ事業】売上高の状況

上期 売上高 3,872億円 (前年同期比+6.2%)

- ・既存店売上高: 前年同期比+3.6%
- ・スクラップ&ビルドによる店舗の大型化
上期の1店当たりの売上高は前年同期比+5.2%

既存店売上高: 前年比+3.6% (客数 +6.3%、客単価▲2.5%)

- ・客数 : 客数はプラスに転じる
販促活動を強化した結果、ウルトラライトダウン、ヒートテック、暖パンなどコア商品の販売が好調
- ・客単価: イージーレギンスパンツなどの一品単価の低い商品の販売が好調
値引きを強めた影響

直営既存店 前年比	2013年8月期						
	1Q	12月	1月	2月	2Q	上期	3月
売上高	+5.0%	+4.5%	▲5.5%	+9.6%	+2.1%	+3.6%	+23.1%
客数	+6.9%	+7.2%	▲1.3%	+15.1%	+5.7%	+6.3%	+30.0%
客単価	▲1.8%	▲2.5%	▲4.3%	▲4.8%	▲3.4%	▲2.5%	▲5.4%

直営店舗数: 2013年2月末828店舗 (前年同期末比±0店舗) 7

まず、上期の売上高の状況についてご説明いたします。

売上高が前年同期比6.2%増になった要因は、既存店売上高が3.6%増になったこと、スクラップ&ビルドによる店舗の大型化を進めた結果、1店舗当たりの売上高が増加したことによります。
上期の1店当たり売上高は4.3億円と前年同期比5.2%増となっております。

なお、2月末の直営店舗数は828店舗と、前年同期末と同店舗数となっております。

既存店売上高3.6%増の内訳は、客数が6.3%のプラス、客単価が2.5%のマイナスです。

客数がプラスに転じた要因は、「期間限定販売」など販促活動を戦略的に強化した結果、ウルトラライトダウン、ヒートテック、暖パンといったコア商品の販売が好調だったことによります。

客単価がマイナスになった要因は、イージーレギンスパンツなどの一品単価の低い商品の販売が好調だったことに加え、値引きを強めた影響によります。

なお、前年度まで客数が減少しており、これを経営課題としておりましたが、この上期には客数を前年同期比プラスに転換させることができました。

また、すでにお知らせしている通り、3月の既存店売上高は、大幅な客数増により、前年比で23.1%伸ばすことができました。

上期 売上高総利益率 46.7% (前年同期比▲1.5p)

直近予想比: 1.4ポイント下回る

- ・10月から、集客を目的とした「期間限定販売」の実施日数や品番数を増やした影響により、値引き率が拡大
- ・冬物在庫処分が進む

次に、国内ユニクロ事業の上期の売上高総利益率ですが、46.7%と、前年同期比1.5ポイント低下いたしました。これは直近予想に対して1.4ポイント下回る水準となっております。

粗利益率が計画を下回ったのは、10月から集客を目的とした「期間限定販売」の実施日数や品番数を増やした影響により、値引き率が拡大したこと、冬物在庫処分が進んだことによります。

【IRのみ】上期では、客数をプラスに転換させることができましたので、今後は限定販売の品番数をコントロールするなどにより、粗利益率を前年比で改善させていく計画です。

上期 売上高販管費比率 28.9% (前年同期比+0.5p)

単位：億円

	2012年8月期 上期		2013年8月期 上期			
	実績	(売上比)	実績	(売上比)	増減	(売上比)
販管費合計	1,035	28.4%	1,119	28.9%	+84	+0.5p
人件費	290	8.0%	315	8.1%	+24	+0.1p
広告宣伝費	151	4.2%	162	4.2%	+10	+0.0p
賃借料	233	6.4%	246	6.4%	+13	+0.0p
減価償却費	33	0.9%	33	0.9%	+0	+0.0p
その他経費	325	8.9%	360	9.3%	+35	+0.4p

9

売上高販管費比率は28.9%と、前年同期比0.5ポイント上昇いたしましたが、計画の29.0%以内に収めることができました。売上高が計画比で上ブレいたしましたが、経費はコントロールすることができております。

売上高比率で上昇した経費は、その他の経費で0.4ポイント、人件費で0.1ポイントです。

その他の経費では、売上高の増加に伴い、物流費、消耗品費、委託費が増えています。また、人件費は、売上高が上ブレしたことにより、アルバイトの人件費が増えています。

【海外ユニクロ事業】上期実績(1)

大幅な増収増益
直近予想比: 売上高+50億円

- ・中国・香港、台湾、韓国、その他アジアで大幅な増収増益
- ・欧米事業の業績も計画通りに推移
- ・営業利益率低下は、全世界で出店加速したことによる影響
- ・海外ユニクロ事業の大量出店続く:
70店舗出店、3店舗閉店、2月末の店舗数は359店舗

単位: 億円

		2012年8月期		2013年8月期	
		上期実績	上期実績	前年同期比	
海外ユニクロ事業	売上高	848	1,306	+54.0%	
	営業利益	114	160	+39.8%	
	(売上比)	13.5%	12.3%	▲1.2p	

10

次に、海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

売上高は1,306億円、前年同期比54.0%増、営業利益は160億円、同39.8%増と大幅な増収増益を達成いたしました。海外ユニクロ事業の業績は、1月10日に増額修正しておりますが、円安が進んだことなどから、直近予想に対し、上期では売上高が約50億円、営業利益も若干上ブレしております。

特に、中国・香港、台湾、韓国、その他のアジアで、大幅な増収増益となりました。

また、欧米事業の業績も計画通り推移いたしました。

上期の海外ユニクロ事業の営業利益率が12.3%と、前年同期比1.2ポイント低下しておりますが、これは、全世界で出店が加速し、新店関連の一時的な費用が増加した影響によるものです。

この上期においても大量出店が続き、海外ユニクロ事業全体では70店舗を出店、3店舗を閉店したことにより、2月末の店舗数は359店舗となりました。

各エリアの業績トレンド

中国: 大幅な増収増益を達成

- ・10月下旬から冬物のコア商品の販売が好調
- ・上期の既存店売上高は二桁近い増収
- ・新店は計画通り39店舗を出店、2月末の店舗数は182店舗

香港: 既存店売上高の二桁増収が続き、大幅な増収増益

台湾: 10店舗を出店、計画通りの好調な業績

韓国: 計画通り、増収増益を達成

- ・12月以降は、欠品による売上高のスローダウン、2Qの増益率が鈍化
- ・新店は計画通り12店舗を出店、2月末の店舗数は91店舗

シンガポール・マレーシア・タイ・フィリピン: 計画通り、好調な業績

米国: 赤字だが、計画通りの業績

- ・秋に大型店2店舗を出店したことにより大幅増収

欧州(英国、フランス、ロシア): 計画通り、増収増益

ここからは、各エリアの業績トレンドについてご説明いたします。

まず中国ですが、大幅な増収増益を達成いたしました。10月下旬から、ウルトラライトダウン、ヒートテックといった、冬物のコア商品の販売が好調に推移し、上期の既存店売上高は二桁近い増収となりました。新店も計画通り39店舗を出店、2月末の店舗数は182店舗となっております。

香港では、既存店売上高の二桁増収が続き、大幅な増収増益となりました。

台湾では、10店舗を出店、2月末での店舗数は27店舗となり、計画通りの好調な業績となっております。

韓国では、計画通り増収増益を達成いたしました。ただし、第1四半期にフリース、ヒートテックなどがブーム的に売れたため、12月以降は欠品により売上高がスローダウンし、第2四半期3ヶ月間の既存店売上高は前年同期比で若干のマイナスとなっております。その結果、第2四半期の営業利益の増益幅は第1四半期に比べて、鈍化いたしました。新店は計画通り12店舗を出店、閉店は1店舗、2月末の店舗数は91店舗となっております。

シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピンについては計画通り、6店舗を出店し、好調な業績を達成しております。

上期の米国事業は、赤字となりましたが、計画通りの業績となっております。秋にサンフランシスコ ユニオンスクウェア店、ガーデンステイトプラザ店といった大型店2店舗を出店したことにより、売上高は大幅に増加しましたが、赤字幅は前年並みとなっております。

英国、フランス、ロシアといった欧州では、パリに1店舗出店し、計画通り、増収増益となっております。

増収増益を達成

ジーユー事業：計画通り二桁の増収増益

- ・既存店売上高の高い伸びが続く
- ・冬物在庫処分を進めた結果、2Qの増益率は若干鈍化

セオリー事業：計画通り、前年同期比で若干の減益

- ・主に米国においてマーケティング費用、人件費が増加
- ・通期では、増収増益を見込む

CDC事業、PTT事業：計画通り前年並みの業績

J Brand事業：約2ヶ月間を連結

- ・約2ヶ月間の売上高は25億円、営業利益は無形固定資産の償却等により2億円の赤字

		2012年8月期		2013年8月期		単位：億円
		上期実績		上期実績	前年同期比	
グローバルブランド事業	売上高	748		957	+27.8%	12
	営業利益	79		85	+8.5%	
	(売上比)	10.6%		9.0%	▲1.6p	

グローバルブランド事業の上期の売上高は957億円、前年同期比27.8%増、営業利益は85億円、同8.5%増と増収増益を達成いたしました。これは、売上高、営業利益ともに計画通りの水準となっております。

ジーユー事業ですが、計画通り二桁の増収増益を達成いたしました。第2四半期も既存店売上高の高い伸びが続きましたが、冬物在庫処分を進めた結果、増益率は第1四半期と比べて若干鈍化いたしました。

セオリー事業は、ほぼ計画通りの業績となりましたが、主に、米国においてマーケティング費用、人件費が前年比で増加したことにより、上期は若干の減益となっております。ただし、売上自体は好調であり、通期では増益を見込んでおります。

コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業は、ほぼ計画通り、前年並みの業績となっております。

12月よりファーストリテイリンググループに加わったJ Brand事業は、12月20日より連結の範囲に含めております。約2ヶ月間の売上高は25億円、営業利益は、買収時に算定された無形固定資産の償却等により、上期実績では2億円の赤字となっております。

【連結】2013年2月末 B/S

単位：億円

	2012年2月末	2012年8月末	2013年2月末	前年同期末比
総資産	6,080	5,951	8,064	+1,984
流動資産	4,336	4,245	5,774	+1,437
固定資産	1,743	1,705	2,290	+547
負債	2,069	2,002	2,660	+591
純資産	4,010	3,948	5,404	+1,393

13

次に2013年2月末のバランスシートの説明をさせていただきます。

前年同期末との比較では、流動資産が1,437億円増加し、固定資産が547億円増加した結果、全体の総資産は1,984億円増加し、8,064億円となりました。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント(前年同期末比)

流動資産の増加 +1,437億円 (4,336億円 ⇒ 5,774億円)

現金・預金及び有価証券の増加 +437億円 (2,984億円 ⇒ 3,421億円)

為替予約勘定:負債から資産へ +957億円 (負債147億円⇒流動資産 809億円)

【国内ユニクロ事業】 為替予約の平均レートが期末レートよりも円高
ヘッジ会計適用のため損益への影響なし

たな卸資産の増加 +218億円 (877億円⇒1,096億円)

【国内ユニクロ事業】+23億円

冬+23億円、春+40億円、夏▲40億円

【海外ユニクロ事業】+109億円 店舗数が前年同期末比で125店舗増加

【グローバルブランド事業】+86億円

ジーユー事業、セオリー事業の事業拡大による在庫増、J Brandの在庫を連結

固定資産の増加 +547億円 (1,743億円 ⇒ 2,290億円)

有形固定資産の増加 +155億円 (670億円 ⇒ 826億円)

【海外ユニクロ事業】 店舗数が前年同期比125店舗増加

無形固定資産の増加 +387億円 (409億円 ⇒ 796億円)

【グローバルブランド事業】 J Brandを連結

まず、流動資産が1,437億円増加した要因をご説明します。

現金・預金及び有価証券の合計額は3,421億円と、前年同期末比で437億円増加いたしました。これは、国内ユニクロ事業をはじめとする各事業の営業キャッシュ・フローが増加したことによるものです。

為替予約勘定は、負債側で前年同期末比147億円減少し、流動資産側で809億円増加しております。国内ユニクロ事業では、長期的なヘッジ方針に従って為替予約を行っております。この上期では、期末レートが円安に振れたことから、為替予約勘定が負債から資産に振り替わっております。なお、ヘッジ会計を適用しているため損益への影響はございません。

期末のたな卸資産は1,096億円と、前年同期末比218億円増加しております。

国内ユニクロ事業の2月末の在庫は同23億円増加いたしました。

冬物のウルトラライトダウン、ヒートテックを追加生産したことにより、

冬物在庫が23億円増加いたしました。また、2月から始まった春のキャンペーンに向けて、ボトムスを中心に春物在庫を40億円積み増しております。

海外ユニクロ事業の在庫は、前年同期末比で109億円増加しております。

これは、2月末の店舗数が同125店舗増えたことによりです。

グローバルブランド事業の在庫は、同86億円増加しております。

これは、ジーユー事業、セオリー事業の事業拡大に伴って在庫が増加したこと、J Brand事業の在庫を連結したことによりです。

固定資産は、前年同期末比で547億円増加しております。これは、海外ユニクロ事業で、店舗数が同125店舗増加したことにより、有形固定資産が同155億円増加したこと、J Brandを連結したことにより、無形固定資産が同387億円増加したことによりです。

【連結】上期 キャッシュ・フロー

単位：億円

【単位：億円】	2012年8月期 上期累計	2013年8月期 上期累計	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	+1,237	+1,120	
税金等調整前当期純利益	+926	+1,065	ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献
減価償却費、のれんの償却額	+117	+126	
運転資金の増減額	+246	+124	売上債権、たな卸資産、仕入債務の増減の合計額
法人税等の支払い・還付	▲27	▲166	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲205	▲417	
有形固定資産の取得による支出	▲136	▲107	
無形固定資産の取得による支出	▲53	▲27	システム投資などの支出
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	-	▲267	J Brand買収に伴う支出
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲100	▲81	
長期借入れによる収入	-	+148	J Brand買収に伴う借入れ
配当金の支払額	▲89	▲141	期末配当金1株あたり130円の支払
現金及び現金同等物の増加額	963	761	
現金及び現金同等物の期首残高	2,021	2,660	
現金及び現金同等物の期末残高	2,984	3,421	

15

次に上期のキャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献により1,120億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは417億円の支出となりました。支出の主な内訳としては、有形固定資産の取得で107億円、システム投資などによる無形固定資産の取得で27億円、J Brand買収に伴う支出で267億円となっております。

なお、上期の連結ベースの設備投資額は169億円、内訳としては、海外ユニクロ事業で69億円、国内ユニクロ事業で45億円、グローバルブランド事業で29億円、ファーストリテイリングで23億円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、81億円の支出となりました。収支の主な内訳としては、J Brand買収などによる借入れ148億円、配当金の支払額141億円となっております。

以上の結果、2013年2月末における現金及び現金同等物の期末残高は3,421億円となりました。

国内ユニクロ事業 : 売上高 +200億円
 営業利益 ▲30億円
 海外ユニクロ事業 : 売上高 +50億円
 グローバルブランド事業 : 売上高 +90億円

単位: 億円

		2012年8月期	2013年8月期		2013年8月期	
		通期実績	直近予想 (1/10時点)	前期比	修正予想 (4/11時点)	前期比
国内ユニクロ事業	売上高	6,200	6,530	+5.3%	6,730	+8.5%
	営業利益	1,023	1,090	+6.5%	1,060	+3.6%
	(売上比)	16.5%	16.7%	+0.2p	15.8%	▲0.7p
海外ユニクロ事業	売上高	1,531	2,290	+49.5%	2,340	+52.8%
	営業利益	109	200	+81.8%	200	+81.8%
	(売上比)	7.2%	8.7%	+1.5p	8.5%	+1.3p
グローバルブランド事業	売上高	1,530	1,850	+20.9%	1,940	+26.8%
	営業利益	145	185	+27.2%	185	+27.2%
	(売上比)	9.5%	10.0%	+0.5p	9.5%	+0.0p

注 連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、のれん償却費が含まれております。

16

ここからは、2013年8月期の通期業績予想についてご説明いたします。
 先に、グループ事業別の業績予想をご説明いたします。

国内ユニクロ事業の売上高の予想につきましては、上期の上ぶれ分87億円に、足元の好調なトレンドを加味し、通期で200億円増額し、6,730億円といたしました。

ただし、下期の営業利益につきましては、販促費を中心とした経費増を見込んでいることから、期初計画と同水準に着地すると予想し、通期の営業利益は上期の下ブレ分30億円のみを反映させた1,060億円へ修正いたします。

海外ユニクロ事業の業績予想につきましては、売上高は、上期の上ぶれ分50億円を加味し、予想を2,340億円といたしました。

また、連結決算への取り込み換算レートを若干円安に修正しておりますが、下期の業績を保守的に見込んでいることから、下期の業績予想は変更しておりません。

グローバルブランド事業の業績予想につきましては、新規連結となったJ Brandの業績を加味し、売上高を90億円増額して、1,940億円といたしました。なお、営業利益においては、J Brandの影響額が小さいため、予想の変更はしておりません。

単位：億円

	業績変更額		主な要因
国内ユニクロ事業	売上高	+200	上期の上ブレ分を反映し、足元の好調なトレンドも加味
	営業利益	▲30	上期の下ブレ分を反映
海外ユニクロ事業	売上高	+50	上期の上ブレ分を反映、円安だが下期は変更せず
	営業利益	0	－
グローバルブランド事業	売上高	+90	J Brand分の増加
	営業利益	0	J Brandの影響額が小さいため変更せず
ファーストリテイリング および連結調整等	売上高	0	－
	営業利益	+30	・グループ各社の売上増による、ロイヤリティ収入の増加 ・経費削減効果 ・のれん償却額の増加(J Brand分 +12億円)
連結	売上高	+340	－
	営業利益	±0	－
営業外収支		+70	円安により、為替差損▲10億円から為替差益60億円へ
経常利益		+70	－
特別損益		0	－
税引き前利益		+70	－
当期純利益		+45	－

17

グループ事業別以外の修正点については、ファーストリテイリング単体および連結調整を含んだ営業利益を30億円増額修正いたします。

ファーストリテイリング単体の営業利益は上期で30億円強、上ブレしております。これは、グループ各社の売上増により、ロイヤリティ収入が増加していること、経費削減効果が出ているためです。下期もこのトレンドが続くことを見込んでおりますが、J Brandののれん償却費と相殺して、通期では30億円の増額修正といたします。

営業外収支では、円安による、為替差益が発生しているため、直近予想の為替差損10億円から、為替差益60億円へと、70億円増額修正いたしました。

この結果、経常利益の予想は70億円の増額修正となっております。

【連結】2013年8月期 通期業績予想

売上高 : 1兆1,030億円 (前期比+18.8%)
営業利益 : 1,475億円 (前期比+16.6%)
経常利益 : 1,535億円 (前期比+22.6%)

	2012年8月期 通期実績	2013年8月期 直近予想 (1/10時点)		2013年8月期 修正予想 (4/11時点)	
				前期比	前期比
売上高 (売上比)	9,286 100.0%	10,690 100.0%	+15.1%	11,030 100.0%	+18.8%
売上総利益 (売上比)	4,754 51.2%	5,485 51.3%	+15.4% +0.1p	5,595 50.7%	+17.7% ▲0.5p
販管費 (売上比)	3,490 37.6%	4,010 37.5%	+14.9% ▲0.1p	4,120 37.4%	+18.0% ▲0.2p
営業利益 (売上比)	1,264 13.6%	1,475 13.8%	+16.6% +0.2p	1,475 13.4%	+16.6% ▲0.2p
経常利益 (売上比)	1,252 13.5%	1,465 13.7%	+17.0% +0.2p	1,535 13.9%	+22.6% +0.4p
特別損益	▲18	▲40	-	▲40	-
当期純利益 (売上比)	716 7.7%	870 8.1%	+21.4% +0.4p	915 8.3%	+27.7% +0.6p

単位：億円

18

以上の結果、連結の通期の業績予想は、
 売上高は、1兆1,030億円、前期比18.8%増、
 営業利益は、1,475億円、同16.6%増、
 経常利益は、1,535億円、同22.6%増、
 当期純利益については、915億円、同27.7%増を見込んでおります。

売上高 : 6,730億円 (前期比+8.5%)

営業利益 : 1,060億円 (前期比+3.6%)

単位: 億円

	2012年8月期	2013年8月期		2013年8月期	
	通期実績	直近予想 (1/10時点)	前期比	修正予想 (4/11時点)	前期比
売上高 (売上比)	6,200 100.0%	6,530 100.0%	+5.3%	6,730 100.0%	+8.5%
売上総利益 (売上比)	2,995 48.3%	3,175 48.6%	+6.0% +0.3p	3,220 47.8%	+7.5% ▲0.5p
販管費 (売上比)	1,971 31.8%	2,085 31.9%	+5.8% +0.1p	2,160 32.1%	+9.6% +0.3p
営業利益 (売上比)	1,023 16.5%	1,090 16.7%	+6.5% +0.2p	1,060 15.8%	+3.6% ▲0.7p

19

こちらのスライドは、国内ユニクロ事業の通期業績予想となっております。

国内ユニクロ事業は、下期では粗利率改善を見込んでおり、通期では増収増益を予想しております。

前年の下期は、特に第4四半期で夏物処分が増えたことにより大幅な減益となりましたが、今下期は、限定販売による値引きや、売価変更をコントロールすることによって、増益を達成する見込みです。

2013年8月期 配当金予想

中間配当金 140円を予定
年間配当金 280円を予想

	1株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2011年8月期	95円	85円	180円
2012年8月期	130円	130円	260円
2013年8月期 ※	140円	140円	280円

※ 2013年8月期の中間配当については4月11日開催の取締役会にて決議しております。
なお、業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、期末配当金額を変更することがあります。

最後に、2013年8月期の1株当たり配当金についてご説明いたします。
本日の取締役会にて、今期の中間配当金を、1株当たり140円と決議いたしました。
これは従来予想から、変更はございません。

また、期末配当金についても1株当たり140円と予想を変更しておりません。
この結果、年間の配当金は1株当たり280円を予想しております。

以上で私からの説明を終わります。

ありがとうございました。

	2012年8月期	2013年8月期		
	通期実績	直近予想 (1/10時点)	修正予想 (4/11時点)	前期比
売上高	6,200 億円	6,530 億円	6,730 億円	+8.5%
既存店伸び率(通期)	▲0.5%	+0.9%	+5.4%	-
上期(実績)	+2.3%	+0.0%	+3.6%	-
下期(予想)	▲4.3%	+2.4%	+7.9%	-
店舗数純増(通期)	2店舗	9店舗	9店舗	+7店舗
上期(実績)	6店舗	7店舗	2店舗	▲4店舗
下期(予想)	▲4店舗	2店舗	7店舗	+11店舗
売上高総利益率(通期)	48.3%	48.6%	47.8%	▲0.5p
上期(実績)	48.2%	48.1%	46.7%	▲1.5p
下期(予想)	48.4%	49.4%	49.4%	+1.0p
売上高販管费率(通期)	31.8%	31.9%	32.1%	+0.3p
上期(実績)	28.4%	29.1%	28.9%	+0.5p
下期(予想)	36.6%	35.9%	36.4%	▲0.2p

連結対象会社別出退店 実績・予想

【単位：店舗】	12年8月 実績 期末	2013年8月期							
		上期実績(2013/2末)				通期 予想(2013/8末)			
		出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	1,137	96	27	+69	1,206	210	52	+158	1,295
国内ユニクロ事業:	845	26	24	+2	847	53	44	+9	854
直営店	824	25	21	+4	828	52	41	+11	835
大型店	147	17	2	+15	162	34	2	+32	179
標準店等	677	8	19	▲11	666	18	39	▲21	656
FC	21	1	3	▲2	19	1	3	▲2	19
海外ユニクロ事業:	292	70	3	+67	359	157	8	+149	441
中国(除く香港)	145	39	2	+37	182	85	5	+80	225
香港	16	0	0	0	16	3	1	+2	18
台湾	17	10	0	+10	27	20	0	+20	37
韓国	80	12	1	+11	91	27	2	+25	105
シンガポール	7	1	0	+1	8	4	0	+4	11
マレーシア	5	2	0	+2	7	3	0	+3	8
タイ	4	2	0	+2	6	5	0	+5	9
フィリピン	1	1	0	+1	2	5	0	+5	6
英国	10	0	0	0	10	0	0	0	10
米国	3	2	0	+2	5	4	0	+4	7
フランス	2	1	0	+1	3	1	0	+1	3
ロシア	2	0	0	0	2	0	0	0	2
ジーユー事業	176	30	9	+21	197	60	20	+40	216
セオリー事業※	373	17	2	+15	388	40	1	+39	412
コントワー・デ・コトニエ事業※	383	6	6	0	383	10	11	▲1	382
プリンセス タム・タム事業※	153	1	1	0	153	2	4	▲2	151
総 合 計	2,222	150	45	+105	2,327	322	88	+234	2,456

※ FC店含む

適用為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2013年8月期 第2四半期(6ヶ月平均)	82.6	107.8	132.2	13.2	7.5
2012年8月期 第2四半期(6ヶ月平均)	77.2	104.9	122.0	12.2	6.8
2013年8月期 通期予想レート(4/11時点)	82.0	107.0	130.0	13.0	7.5
2012年8月期 通期実績(12ヶ月平均)	78.6	103.9	124.3	12.4	6.9

設備投資・減価償却費・のれん償却費

単位：億円

	設備投資	減価償却費	のれん償却額
2013年8月期 第2四半期実績(6ヶ月累計)	169	103	23
2012年8月期 第2四半期実績(6ヶ月累計)	224	86	31
2013年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	340	204	52
2012年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	401	185	56